

## 子どもの権利トークイベント

- 1 日 時 令和5年2月11日（土） 9時00分～13時00分
- 2 場 所 青森市役所駅前庁舎1階 駅前スクエア
- 3 出席者 子ども会議委員13名、子どもサポーター1名、子どもの権利擁護委員3名、事務局4名、一般参加者14名
- 4 活動内容 子どもの権利トークイベント
- 5 開催概要

「子どもの権利」のさらなる周知のため、トークを通して楽しく学び、体験してもらう子どもの権利トークイベントを開催しました。

### はじめに

司会の高校生委員から、子どもの権利擁護委員の紹介とイベントの開催主旨、タイムスケジュールなどの説明がありました。



### アイスブレイク

次に、参加者の緊張をほぐすために、前回の会議で考えた「煮干しラーメンを作ろう！」というアイスブレイクを行いました。制限時間を3分にして行いましたが、5種類の具材をすべて集めて煮干しラーメンを作ることができたのはたったの1グループでした。最初の声かけはみんな積極的でしたが、2人ペアになってから別のペアに声をかけることに戸惑っている人が多い印象でした。

### トークゲーム（ディベート）

ディベートをするのが初めての人もいたので、ディベートの流れや「相手の話を否定しない」などのルールを確認した後、「朝食はご飯とパンどっち派？」という例題で子ども会議委員が実演をしました。

次に、みんなで今日のトークテーマについて話し合い、多数決の結果、「学校で使うのは、シャープペンシルとえんぴつ どっち？」と「ご飯中にテレビをつけるのはあり？なし？」の2つに決まり、各自、自分が話したいテーマのグループに分かれました。

〈グループ① 学校で使うのはシャープペンシルとえんぴつ どっち？〉

	シャープペンシル派	えんぴつ派
自分たちの強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインがたくさんある</li> <li>・ペンつきもあって1本で完結できる</li> <li>・芯の太さも選べる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芯が折れにくい</li> <li>・1本で長く使える（約50km線を書ける）</li> <li>・トメハネハライなど字がきれいに書ける</li> </ul>
相手からの質問と返答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音がうるさい →音が出ないものもある</li> <li>・本体も芯も買うとなるとお金がかかる →本体はえんぴつよりも長持ちするし、芯は100円ショップで安く買える</li> <li>・芯が折れやすい →芯が折れにくいものもある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・削るのが面倒、テスト中削れない →何本か用意すれば良い</li> <li>・キャップが外れたら筆箱の中が黒くなる →えんぴつを差す筆箱もある</li> <li>・先が丸くなって書きづらい →マークシートのテストで使いやすい</li> </ul>

シャープペンシル派では、実際に使っているシャープペンシルを審判の沼田委員に使ってもらい芯が折れにくいことを体験してもらったり、えんぴつ派では、「1本で50kmの線が書ける」といった数字を出すことで説得力を持たせたりして、両チームとも引けを取らない議論になりました。

最後に、沼田委員から「どちらのチームもメリットデメリットをうまく見つけて話すことができているよかったです。特にシャープペンシル派の人は、自分たちが有利になるような質問をすることができていたので、今回はシャープペンシル派の人たちが良かったと思う。」と講評をいただきました。



〈グループ② ご飯中にテレビをつけるのはあり？なし？〉

	テレビあり派	テレビなし派
自分たちの強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビの情報が家族の会話のきっかけになる</li> <li>・ながらで情報を取得できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナーを守って食事ができる</li> <li>・家族間での情報共有の時間になる</li> <li>・意識が食事に集中しているので、食をより一層楽しめる</li> </ul>
相手からの質問と返答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事のマナーが悪くなる →テレビを見ながらも、マナーとは関係がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話題が少なく家族間での会話が減るのでストレスに繋がる →学校でのできごとなど、家族自身の話題で会話ができる</li> </ul>



ご飯中テレビをつけるのがあり派もなし派も、普段の自分たちの家庭を思い浮かべながら積極的に発言し、とても盛り上がりました。

最後に、関谷委員から「どちらのチームの主張も説得力があってよかったが、自分たちの主張を話し合うときに、みんなが円になって熱心に議論している姿が印象に残ったので、今回はテレビをつけるのがあり派が良かったと思う。」と講評をいただきました。



### フリートーク

休憩を挟み、参加者全員でフリートークを行いました。小林委員をファシリテーターに、日常の中で「あれっ？」と思ったことについて自由に話しました。「兄弟でお年玉の金額が違うこと」、「学校の先生と考えが合わなかったできごと」などが話題に挙がりましたが、参加者からたくさんの共感が得られた「学校での理不尽なできごと」を掘り下げていくことにしました。小林委員が、子どもたちからたくさん意見を引き出して議論を盛り上げ、反対に、「先生が自分のことを理解してくれたうれしい経験」も振り返りました。

まとめとして、「理不尽な思いをしたときに私たちは何をしたらいいか？」を考えました。相手を言いくるめるのではなく、トークゲームで実践したようにお互いに納得しあうための行動が大事であることを再確認しました。

最後に、3人の子どもの権利擁護委員から「参加してくれたみなさんが自分の思っていることをきちんと言えていて良かった。大人には子どもの話を聞く責任があるので、みなさんは感情を抑えて自分の気持ちをうまく伝えられるようにしてほしい。みなさんならできると思います。」などの講評をいただき、フリートークは終了となりました。



## お楽しみコーナー

最後に、子どもの権利にちなんだクイズやワードビンゴ、「けんりはかせを探せ！」などのお楽しみコーナーを行いました。クイズの正解数やビンゴした早さに応じてポイントがもらえ、最後は獲得ポイント数に応じて景品がもらえます。クイズでは、真剣に取り組み回答に時間がかかっている人もいました。

<実際に出題したクイズ(一部)>

下のイラストがあらわしている言葉は？

- (ア) 豊かで健やかに  権利
- (イ) 意見を表明し  する権利
- (ウ)  して生きる権利
- (エ)  も  生きる権利

2年越しの企画が実を結んだトークイベントは、和気あいあいとした雰囲気うちに終了することができました。参加者からいただいたアンケートでは、「とても楽しかった」や「また参加したい」といった意見が多く、好評な様子でうれしかったです。「時間が足りない等」の意見もあったので、来年以降に活かせるようにしたいと思います。

次回の会議では、今年度の集大成である活動報告会に向けた準備活動を行っていきます。